



「図書館をあなたの大切なスペースに」

秋田県教育委員会 教育長 米田 進



秋田県立図書館は明治三十二年十一月に「県立秋田図書館」として開館し、今年一〇〇周年という記念すべき年を迎えております。

ここ十年は、平成二十三年度策定の「秋田県読書活動推進基本計画」、そして平成二十八年度の「第2次秋田県読書活動推進基本計画」などを屋台骨にして、県民の読書活動の推進に向けて、その重要な役割を果たしてきているところです。

最近では「打って出る図書館」を合い言葉に、県内市町村の図書館・公民館、学校等への「セット貸出」「訪問による支援」等も鰻登りにその数が上昇し、まさにアウトリーチ型のアクティブな図書館としてフル回転の状況です。また一方、館内では企画展示・イベント、外部機関との連携による様々な催しを行うとともに、「利用者ファースト」で閲覧室内に様々なコーナーを設置するなど、「寛ぎのスペース」「有益なセカンドオフィス」として多くの県民に親しまれております。

私個人としては「寛ぎのスペース」でゆったりと過ごしたい、というのが本音ですが、実際に図書館を訪れるのは本を借りるためというだけで、「つまみ食いをするような感じで」本を手にとってカウンターに行くのが殆どです。今は、借りた本を返却するまで、全てを読み通すことはなかなかできませんが、それでも言葉の大海に

飛び込み泳いでいくのが好きです。（最近は言葉の海の中で視界が不良になり溺れてしまうことも多くなりましたが（笑）。）

セレンディピティ (serendipity) という言葉があります。「素晴らしい偶然に出会ったり、予想外のことを発見すること」等の意味を持ちますが、本などを読んでいて、時折「これだ!」と感動を覚えたり、勇気づけられたりするような言葉や文章に出会うことがあります。これも私が読書に期待することの一つです。普段思っていることにぴたり合う表現に出会ったときの「ビビッと」するような感じは何ともいえません。

私たちは、それぞれ目的をもって本を読みますが、学習のためでも、気晴らしの一時を求めるためでもよし、また頭脳をトレーニングする機会を得るためでもよし、まずは本を手にとらない限り、その機会は生まれません。全国に先駆けて「読書条例」を制定したのが秋田県です。その県民として、発見をもたらし、幸せ、安らぎを与える多くのお宝で一杯の県立図書館を積極的に利用したいものです。図書館は「あなたの学びと憩いのスペース」になりたい♥のです。



調べ学習コーナーとteens'コーナー

秋田県立図書館創立120周年記念事業(前期)

県立図書館は今年の11月1日に創立120周年を迎えました。創立120周年を記念して行った様々な事業を今年度発行する第91号と第92号に分けて特集します。第91号では令和元年6月から9月に実施した事業を紹介します。

秋田県立図書館創立120周年記念講演会



押尾川親方講演会「我が相撲人生」

6月22日(土)、創立120周年を記念した講演会が秋田市にぎわい交流館AU(あう)で開催されました。講師を今年の初場所で引退された北秋田市出身の押尾川親方(元関脇豪風)に、聞き手

を元ABSアナウンサーの椿田恵理子さんをお願いし、「我が相撲人生」と題してトークショー形式で行いました。

押尾川親方の相撲に対する情熱、郷土秋田への強い思いを感じることができる講演会であり、またユーモアあふれる親方の一面にも触れることができました。椿田恵理子さんの司会進行により、会場の参加者と壇上の押尾川親方の距離も縮まり、親方の軽快なトークに会場が笑いに包まれる場面も多々ありました。熱心に押尾川親方の話に聞き入る観客の様子がとても印象的な講演会でした。

秋田県立図書館創立120周年記念事業「作家による読書講座」



「作家による読書講座」高橋大輔氏講演会

創立120周年記念事業の第2弾として、7月31日(水)に県立図書館を会場に、探検家であり作家である秋田市出身の高橋大輔さんを講師としてお迎えし、「本と旅のあいだ～ノンフィクションをどう書くか～」とい

うタイトルで講演を行いました。

高橋大輔さんが、探検家として探り、検証してきたロビンソン・クルーソーの生家の話や、浦島太郎伝説について聞いているうちに、参加者は物語や伝説の中に潜んでいるリアリティ(現実)の可能性にどんどん引き込まれていきました。講演の後半では高橋大輔さんが参加者の質問に直接答える時間もあり、探検家・作家の魅力を身近に感じることができる講演会となりました。

秋田県立図書館120周年記念マスコットキャラクター作成!

県立図書館は、1899(明治32)年の開館から2019(令和元)年で創立120周年を迎えました。これを記念して多くの講演会やイベントを実施していますが、当館初?のマスコットキャラクターもこのたび作成しました!市町村や大学等の図書館ではもうお馴染みとなっているマスコットキャラクターですが、県立図書館ではズバリ直球!の「ナマハゲ」と「秋田犬」で、ナマハゲの名前は「ケントくん」、秋田犬の名前は「けやきちゃん」です。リニューアルされた図書館のクリアファイルや、児童向けの「子ども読書ノート」にも登場済みなので、すでに目にした方もいらっしゃることでしょう。今後、絵柄のバリエーションを増やして、館内外のいろいろな媒体に登場し活躍する予定ですので、かわいがってあげてください。これからもよろしくお願いいたします!



120周年で新しくなったクリアファイルの裏面(左)と、ケントくん(右)・けやきちゃん(中)

学校図書館職員等研修会

8月2日（水）に多目的ホールを会場として、学校図書館職員等研修会を開催しました。高校や特別支援学校の生徒・教職員合わせて53名が参加し、講義・情報交換会を行いました。

講義は、探検家で作家の高橋大輔さんを招き、生徒にも馴染みのある浦島太郎伝説をメインにお話いただきました。参加者たちは、昔話のルーツを探り、様々な場所を巡ってヒントを得ていくお話に聞き入っていました。

情報交換会は各校の活動内容を発表したり、お互いの学校の取組について質問するなど、生徒・教職員同士の交流の場となりました。

参加者からは、自校の取組に取り入れたい活動があった、他校と交流することができて良かった、などの感想が挙がりました。



情報交換会では生徒が自校の委員会の活動を紹介しました。

秋田県立図書館創立120周年記念貴重資料展 明治から令和へ

7月27日（土）から8月20日（火）まで、県立図書館が収集した資料の中から、普段未公開の貴重資料を展示しました。

主な展示物は、秋田県有形文化財に指定された『御曹子島渡り』、「根本通明文庫」より『古写本論語』『論語』『考教』『大学』『周圀』等、「手柄岡持関係資料」より『初なすびの図』『松茸図』『業平小町之図』です。他には『佐竹本三十六歌仙絵巻』、「佐竹曙山書画軸」より『水仙図』『風竹虎図』『竹図』、「時雨庵文庫」より「安藤和風掛

け軸」、句集、『羽州久保田大絵図』などです。

資料の一部はデジタル化し、秋田県立図書館デジタルアーカイブ(<https://da.apl.pref.akita.jp/lib/>)で公開しています。

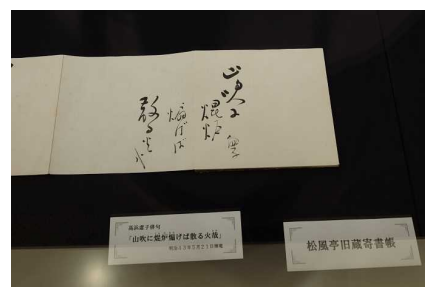


来館者は一つ一つの作品に興味深く観覧していました。

秋田県立図書館創立120周年記念展示 あきた文学資料館貴重資料展

9月28日（土）から11月5日（火）まで、あきた文学資料館（県立図書館分館）が開館以来13年間にわたり、収集した資料の中から、貴重な自筆資料を展示しました。明治30年ころ、日本の詩歌は大きな転換期を迎え、旧弊な旧派の和歌や発句は、明治という時代にふさわしい革新的な短歌や俳句に生まれ変わりました。中でも革新の急先鋒として存在感を増すのは、俳句においては日本派の正岡子規、短歌においては子規のほか、与謝野鉄幹、佐佐木信綱などでした。この展示では、県内に保存されていた鉄幹や高浜虚子らの書簡をとおして、近代詩歌の革新と秋田との関係を解説しました。

また、『種蒔く人』を発刊した小牧近江がフランスから家族に送った絵はがきや、児童雑誌『赤い鳥』を創刊した鈴木三重吉の書簡などを展示しました。



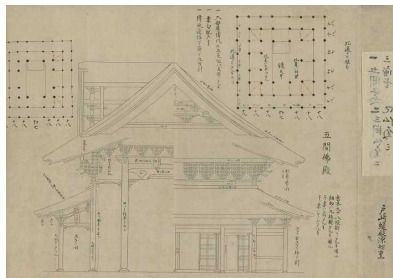
千秋公園の中にあつた料亭松風亭で詠まれた高浜虚子の俳句

Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

「秋田県立図書館デジタルアーカイブ」 新コンテンツのご紹介



宮大工資料の一点「一番、二番、
三番」より仏殿図面(部分)

平成31年1月にリニューアルした県立図書館のデジタルアーカイブでは、データ保存領域の大容量化により、以前では画像点数が多すぎて登録できなかった資料を公開できるようになりました。中でも、秋田藩の御大工を務めた戸崎氏より寄贈された、建築図面等のコレクション（通称「宮大工資料」）は、昔の社殿、塔、邸宅などの建築様式や装飾などが細かく記述された珍しい資料です。当館の貴重資料のため、普段は展示できませんが、デジタルアーカイブでは好きな部分を自由に拡大して見ることができます。この機会にぜひご覧になってはいかがでしょうか。

情報班・サービス班

新着図書コーナーのご紹介



調べ学習コーナーに設置されている新着図書コーナー

閲覧室入口をまっすぐ進むと、新着図書コーナーがあります。普段からご利用いただいている方も多いと思いますが、この度、配置換えを行いました。以前は全ての新着図書を一か所に置いていましたが、「teens' コーナー」「調べ学習コーナー」「ビジネスコーナー」の新着図書コーナーを、新たに設置しました。また、このリニューアルによって既存の新着図書コーナーにゆとりができ、各分野ごとのスペースを広くとっていますので、見やすく生まれ変わっています。それぞれのコーナーへ行っていただくと、ひと目

で分かるようになっていきます。ぜひ足を運んで、お気に入りの一冊を見つけてください。

企画・広報班

県立図書館の探検に出発!



書庫には本のほか、開館以来収集してきた貴重資料や、新聞・雑誌等が保管されています。

8月16日(金)、昨年に引き続き「夏休み特別企画 県立図書館探検隊」を行いました。当日は、朝から台風が接近するあいにくの天候となりましたが、1回目と2回目を合わせ、80名の方に探検隊の隊員として参加いただきました。

3階多目的ホールで出発式を行った後、3グループに分かれて探検を開始。1階書庫、2階閲覧室、4階書庫を回りました。書庫については、普段、利用者が入ることはないため、隊員の皆さんも興味津々。パソコンの導入以前に使われていた、目録カード（本を管理するための情報が書かれたカード）の内容を見たり、ちりめん本と呼ばれる、和紙をちりめん布のように加工した明治期の本を手にとって読んでみたり、といった体験をしました。

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■秋田をまなぶ講座シリーズⅪ

音楽セミナー「秋田の四季」

四季が鮮やかな秋田の春夏秋冬をテーマにした楽曲を鑑賞し、そのイメージする文学的世界について考えます。

【期日】12月15日(日)

【時間】午後1時30分から午後3時まで

【会場】県生涯学習センター 3階講堂

【出演者】

秋田大学名誉教授 佐々木久春

二期会会員 土崎 宏人

ピアノ伴奏 大山 英子

【参加費】無料

【定員】100名(要申込み)